



京 都 大 学 生 存 圈 研 究 所

Research Institute for Sustainable Humanosphere Kyoto University



生存圏研究所の理念

人類の生存を支え人類と相互作用する場を「生存圏」としてとらえ、「生存圏」の正しい診断と理解に基づき、「生存圏」の開発・創成に統合的・戦略的に取り組み、人類の持続的な発展と福祉に貢献する。

生存圏研究所の目標

- ✓ 「生存圏」を構成する「人間生活圏」、「森林圏」、「大気圏」、「宇宙圏」における先端研究・技術開発の有機的連関により、「生存圏」の現状を精確に診断・評価する。
- ✓ 「生存圏」が抱える諸問題の解決に戦略的に取り組み、「生存圏」劣化の悪循環を断ち切り、持続的発展可能な「生存圏」を創成する指針を示す。
- ✓ 大学院教育、若手研究者養成、国際交流に積極的に取り組み、「生存圏科学」を担う次世代の人材を育成する。→大幅なカリキュラムの改善



「生存圏科学」は既存の多くの学問領域を包摂した学際領域である。

生存圏研究所における教育の特徴

・農学、工学、情報学、理学と広範な研究分野の背景を持った教員による分野横断的な学際教育を通して、持続的社会の構築に深く関わる生存圏の科学を担う多彩な人材育成をめざしている。

・全国・国際共同利用に供される最先端の研究設備・データベースや国内外の共同研究者に接することを通して、総合的な知識と俯瞰的かつ国際的な視野をもち、生存圏の科学の発展に寄与する教育を実施している。

1. 学内での授業並びに演習

・大学院：農学研究科、工学研究科、情報学研究科、理学研究科

講義：19教科、演習・実験：13教科

・学部：農学部、工学部、理学部

講義：11教科、演習・実験：6教科

・全学共通科目：講義：8教科、ポケットゼミ：3教科

・京都サステイナブルイニシアティブ：2コースを英語で提供

2. 施設・データベースの共同利用や共同研究を介した教育・人材育成

3. 生存圏シンポジウム、オープンセミナーなどを介した教育・人材育成

4. 修士論文合同発表会による学際教育の推進

生存圏研究所におけるFDの位置づけ：

高度に専門化すると同時に、ますます学際化しつつある
生存圏科学領域の研究教育の推進戦略

- ✓ 旧来の専門領域の区分に収まらない総合的なアプローチを必要とする課題も急増しており、こうした状況の中で、広い視野を持ち新しい学問領域を創造できるような能力をもつ大学院生を養成するために様々な教育プログラムを実施。

本年度の主なFD活動

- **Humanosphere Science School (HSS)** をインドネシア・ガジヤマダ大で開催（平成22年6月）
- **JSPS-ASEAN若手研究者交流事業**で12名を招聘（平成22年6-8月）
- **理工融合・文理融合** 研究を推進するために**大学院横断型教育ユニット**を開設
- **研究科横断型教育プログラムB** の提供。「木の文化」など。

大学院横断型教育ユニットを開設

防災研究所と生存圏研究所の多くの分野の研究者・学生が知恵を出し合い、複合的な視点でグローバルな課題に取り組む

極端気象と適応社会の生存科学

教育ユニット

文理融合

理工融合

社会基盤施設
計画学
予報技術
人工知能

工学
研究科

農業被害
食料問題
森林保全

農学
研究科

理学
研究科

気象学・気候学
数値モデル・予測
地球温暖化

地球環境
学堂・学舎

砂漠化
政策科学
国際協力
社会経済

生存圏
研究所

防災
研究所

情報学
研究科

災害情報
集団心理、心のケア
リスク・コミュニケーション

グローバルな観測・監視技術
自然災害、防災・減災
異常気象の検知
危機管理、復旧・復興

各研究科の協力講座としても優れた教育実績をもつ両研究所が融合研究教育に主体的に参画

東アジアにおける生存圏科学の確立に向けた 若手リーダー育成プログラム

若手研究者交流支援事業 — 東アジア首脳会議参加国からの若手研究者招へい

- ASEAN主要国から若手研究者を招聘し、生存圏科学を担う次世代若手国際リーダーに育成
- 国際共同利用・共同研究拠点の基盤強化

